資料１

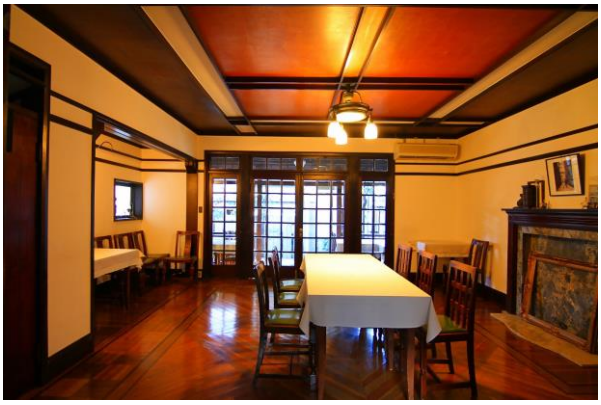
（１）春田家住宅主屋、春田家住宅門及び塀について

所 在 地 ： 名古屋市東区主税町三丁目６－２他
所 有 者 ： 個人

名　　称	形　　式	建 設 年 代	登 録 基 準
春田家住宅主屋	木造２階建、瓦葺	大正 13(1924)年／平成 12(2000)年改修	造形の規範となっているもの
春田家住宅門及び塀	門：木造瓦葺 塀：木造瓦葺	大正 13(1924)年頃／平成 12(2000)年改修	国土の歴史的景観に寄与しているもの

【概要】
（春田家住宅主屋）
名古屋城東方の住宅地に位置する、もと陶磁器貿易商の主屋。敷地北側の洋館に和館を接続し、いずれも２階建桟瓦葺[1]。洋館は南面にベランダを付し、１階は折上天井の応接間、２階に床構え付き座敷など表向きの部屋を配す。和洋の意匠を巧みに用いた端正な住宅。
（春田家住宅門及び塀）
主屋の正面、通りに南面する門及び塀。門は通りより控えて建つ切妻造[2]平入[3]桟瓦葺の腕木門[4]で門口に両引戸を建て、上部は吹寄[5]の襷桟[6]欄間[7]とする。
塀は切石基礎に建つ総延長 20 メートルの板塀で、外面は漆喰塗で、腰は竪板張。門と一体で屋敷の風格ある表構えをつくる。

桟瓦葺[1]：横断面が波型（Ｓ字型）の平瓦で葺いたもの
切妻造[2]：本をなかばひらいて伏せた形の屋根
平入[3]：切妻造の大棟に平行な側（平）から建物に入る構造のこと
腕木門[4]：二本の本柱から腕木を出し、出桁をおいて、屋根をかけたつくりの門
吹寄[5]：桟二本を一組として配置すること
襷桟[6]：たすきの形に斜めに交差させた桟
欄間[7]：天井と鴨居の間の壁に設けた開口



春田家住宅主屋（左：文化庁提供、右：名古屋市教育委員会提供）

春田家住宅門及び塀（名古屋市教育委員会提供）